

研究発表会の振り返り

第1学年生活科

「土を使って作ろう～かまど作り～」

授業者 田中 伸一

本時（本実践）の主張点

前単元で学習した土遊びで経験した事を生かして、収穫した野菜を土を使って美味しく食べる方法（かまど作り）を考えさせることで、土にこだわりながら試行錯誤し、よりよい食べ方を考え、自ら探究の質を高めていく姿がみられるであろう。

1. 授業づくりの「しかけ」と子どもの探究

本時における授業づくりの「しかけ」

- ①前時の土遊びでの経験，学びを生かせる教材，
- ②自作のかまどで収穫したサツマイモを食べることを目指すこと，
- ③油粘土で，かまどのイメージを具体化することを目的とした。

<前単元からの流れ>

- ① 前単元である「土を使って遊ぼう」とおして、子どもたちは色々な土遊びを楽しみ、その土遊びに適している場所を見つけてきた。泥団子、川作り、山作り、ジュース・お菓子作り、かまど作りを校内5か所の場所でそれぞれの土遊びを経験している。

本時においても、どんなかまどにするか考える時の設計図に「築山の土」や「築山の土+その上にさらさらの土」という記入があったり、発表する時に「築山の土は温かいので、それでかまどを作って、焼き芋にする。」など土遊びの経験から学んだことを生かしてどんなかまどにしようか考えている場面が見られた。

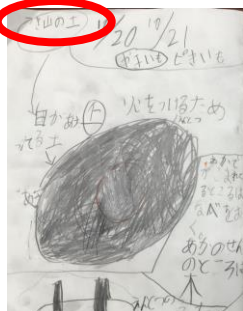


図1
かまどの設計図
「築山の土」



図2
かまどの設計図
「築山の土+その上にさらさらの土」

- ②1学期から栽培していたサツマイモを実際に1本収穫した。みんなで1本掘ると「早く食べたい。」「焼き芋にしたい。大学芋にしたい。」と話し出した。そこで、その料理を作るために、サツマイモをどうすればいいか考え、焼き芋→焼く、大学芋→揚げるなど調理が必要であることに気づいた。自分たちでかまど作り遊びをした経験を思い出し、「かまどを作って食べたい。みんなで作ろう。」という児童の発言から栽培したサツマイモを美味しく食べたいという子どもたちの思いと、土遊びでのかまど作り遊びの経験が結び付いた。

- ③<鍋をのせるとかまどが潰れる>

Aは薪を入れ、火を点けることを考えて、かまどの形を工夫した。茹でるための鍋も作成した。鍋をかまどにのせると、かまどが潰れてしまった。



図3
鍋をのせると潰れたかまど

数人「粘土だから。」

子どもたちの中には、粘土だから潰れたと考えている子もいたが、Aが作った鍋をBに渡す。

B「思い、重いから潰れる。」

B「持ってみると重い。重いから潰れた。」

C「もうちょっと厚くしたらいいんじゃない？
(周り)」

T「どこの土を使えばいい？」

B, C「築山？新野菜畑？」

B「築山と新野菜畑。新野菜畑は水でぬらすと
硬くなるから。」

A「築山はなんで？」

B「硬いから。」

E「硬いからどんなにするん？」

B「泥団子とか… (掲示を使って説明) 頑丈・カ
チカチになった。泥団子作りや川作りで最後
に築山の土を使うと壊れなかった。泥団子も
同じで水かけたら固まった。」



図4
作った鍋を実際に持つ

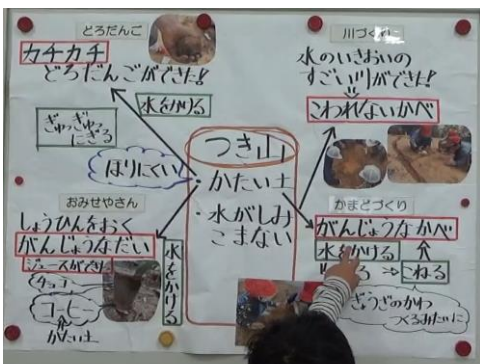


図5
学習の掲示を使って、解決策について話す

粘土で作った鍋を実際に持つことにより、重い
ということが分かり、自分のかまどに鍋をのせると潰れてしまうかもしれない、A さんのかまど作りを助けてほしいという思いをもち考えを出し合うことができた。前単元で自分が土遊びをした体験から、場所による土の違いを説明し、かまどが潰れてしまう問題の解決策を見出そうとした姿が見られた。

2. 本時における教師による評価 or 子どもの評価活動

子どもたちの授業中の発言や土に向かって取り組む様子、タブレット PC の動画や写真等の記録を見せながら、授業の終わりに振り返りを書く時間を設定することで、子どもが自分の考えの変化や活動の高まりを自覚できるようにする評価活動を行う。

子どもたちの振り返り

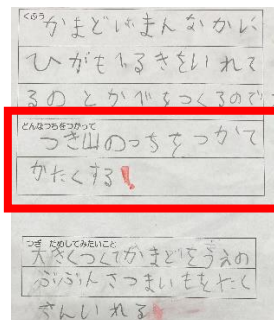


図6
土遊びの経験とかまど作りをつなげて

3. まとめ

教材として有効だと思い取り上げた A のかまど。鍋をのせると潰れてしまったことがその子にとって意欲につながったのか。A はサツマイモを食べたいという思いで、鍋も作っていた。そのおかげで協働が見られ、省察も見られた。みんなの学びになったことは確かではあるが、「A が作った大切なかまどへの思いを大事にしてあげられたら…」と思い反省している。

その後の A は、かまどが潰れないようにと、土台の壁を厚くし、全体を囲み、つぶれないかまどの模型を作り、みんなに紹介することができた。周りの子どもたちも、順に鍋をのせ崩れないか試していた。これからは、いよいよ土を使ったかまど作りに取り組んでいく。

今後も、子どもたちが何度も繰り返しかかわり、試行錯誤をしながら取り組める授業作りをめざしていきたい。



図7
A のかまど改良版